

新産地報告 (12)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (12)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

ヤマトテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema longilaminum Nakai 写真 1

・佐久市協和 1050 m 2017 年 7 月 2 日

NAC185718

カラマツ林の林下にヤマトテンナンショウが多く生育していた。ヤマトテンナンショウは鉤部の先が長く伸び、付属体が細く長いなどの特徴により、他のテンナンショウ類との区別は容易である。本種は長野県では軽井沢周辺と塩尻峠とに生育しているが(上野・上野 2015)、今回は両地を直線で結ん

だ中間地点にあたる。ヤマトテンナンショウは日本固有の植物である(加藤・海老原 2011)。

エビネ (ラン科) *Calanthe discolor* Lindl. 写真 2

・南木曾町妻籠 450 m 2016 年 5 月 15 日

溪流脇の斜面のスギ林内にエビネ類の葉がまとまっているのを前年に見つけていたので、翌年の開花時期に花を確認するために現地を訪れたところ、エビネが咲いていた。近くでは以前天龍村で見たことがあるが(上野・上野 2013)、旧山口村、根羽村でも記録がある(長野県 2002)。



写真 1 ヤマトテンナンショウ 佐久市
2017 年 7 月 2 日



写真 2 エビネ 根羽村 2016 年 5 月 15 日

* 上野 勝典・上野 由貴枝

〒399-0011 長野県松本市寿北 2-2-38

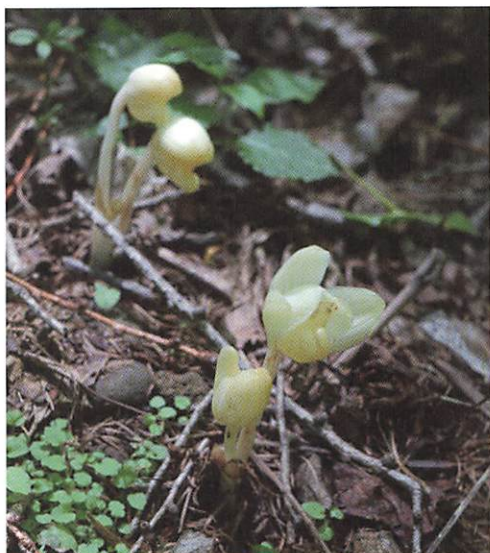


写真3 タテシナショウキラン 佐久市
2017年7月2日

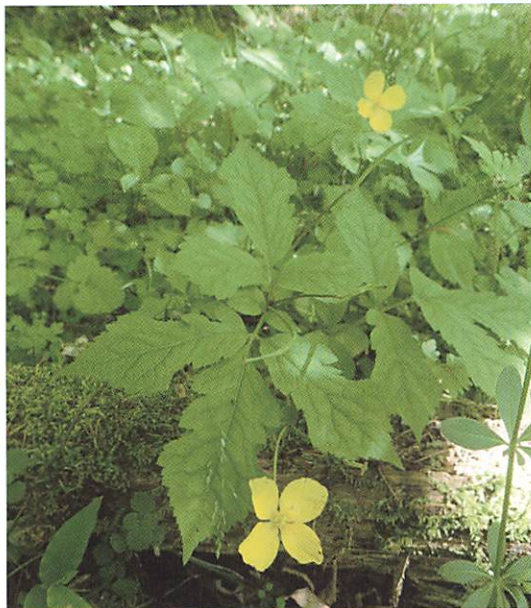


写真4 ヤマブキシソウ 佐久市 2017年6月4日



写真5 シロカネソウ sp 根羽村 2011年5月7日

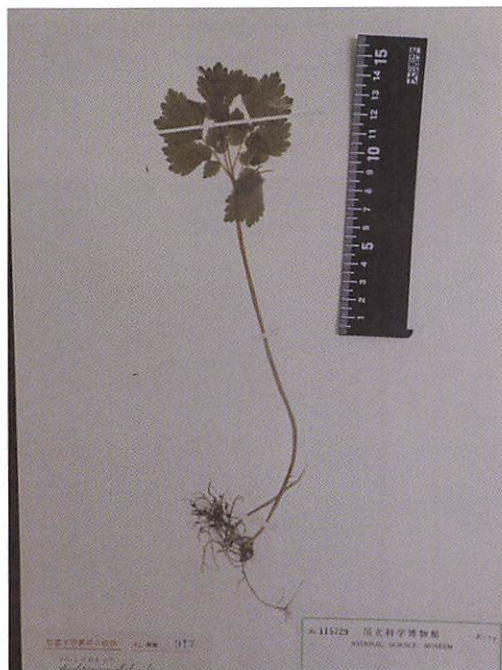


写真6 シロカネソウ類の標本 (国立科学博物館所蔵)

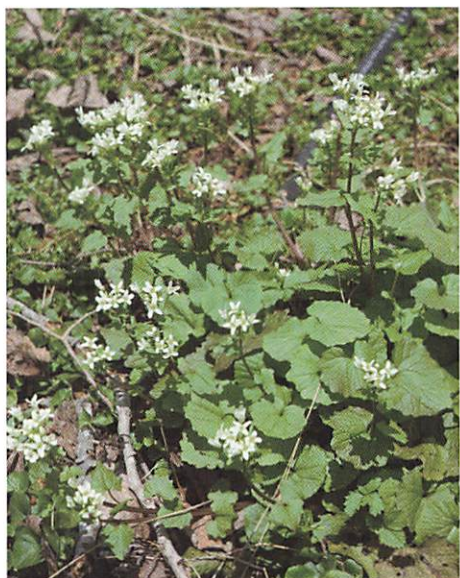


写真7 オオユリワサビ 長野市
2017年5月14日



写真8 ビンゴムグラ 佐久市 2017年9月24日

タデシナショウキラン (ラン科)

Yuania japonica f. *lutea* Suetsugu & Yagame 写真 3

・佐久市協和 1500 m 2017 年 7 月 2 日

NAC185712

溪流脇の針葉樹林下を歩いていたとき、あちこちにやや薄い黄色を帯びたショウキランが開花していた。本種は最近立科町で発見され、ショウキラン *Yuania japonica* Maxim. の黄花品が新品種として認識されたものである。同時に花茎まで純白のシロバナショウキラン *Yuania japonica* f. *alba* K. Imai (nom. nud.) も見られた。これらは同時に混生するように生育しており、色合いも微妙であることから、区別できるものかどうかよくわからない。

ヤマブキソウ (ケシ科) *Hylomecon japonica* (Thunb.)

Prantl et Kündig 写真 4

・佐久市春日 (旧望月町細小路川) 1000 m

2017 年 6 月 4 日

溪流沿いの流れに近いところからその斜面にかけて、ヤマブキソウが大きな群落をつくっていた。すでに開花時期は過ぎており、花がまばらに残っていた。県東部を中心に分布し、佐久市にはいくつか記録がある (長野県植物目録編纂委員会 2017)。

シロカネソウ sp (キンポウゲ科)

Dichocarpum sp. 写真 5

・根羽村万馬瀬 550 m 2010 年 8 月 1 日

NAC160047

以前この植物を、ツルシロカネソウ *D. stoloniferum* (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao として報告したが (上野・上野 2011)、ツルシロカネソウは走出枝が発達し横に広がるのに、本種はほとんど走出枝が出ず、また葉の形状もやや違うように思い、ツルシロカネソウとするのに抵抗があった。しかし他に類似のもので走出枝の出ないものは、ハコネシロカネソウ *D. hakonense* (F.Maek. et Tuyama ex Ohwi) W.T.Wang et P.K. Hsiao かコウヤシロカネソウ *D. numajirianum* (Makino) W.T.Wang et P.K.Hsiao があるが、これらは花が小さくまた長野県でこれまで天龍村でツルシロカネソウの報告があったため、それに倣ってツルシロカネソウとして報告した。その後気になっていたところ、芹沢俊介氏から、岐阜県、愛知県のそれぞれの長野県県境付近に不明のシロカネソウ類があるという情報をいただき、本種がそれと同一のものではないかと思った。そこで、2015 年 5 月 30 日に芹沢氏を根羽村の生育地に案内して

ご確認いただいたところ、岐阜、愛知にあるものと同一のものとの見解であった。さらに長野県のツルシロカネソウの記録を確認するため、2015 年 6 月 3 日に長野県植物誌 (清水 1997) の証拠標本を国立科学博物館に確認にいった。標本は村松光喜氏によって天龍村熊伏山で 1933 年に採取されたものであった (写真 6)。標本の根茎には 5mm 程度の走出枝らしきものがあり、そこに「←ツル」と鉛筆書きが添えられており、おそらく長野県植物誌を作成するときの確認作業でどなたかが記入したものと思われる。しかし、この走出枝はツルシロカネソウにしては非常に短いもので、おそらく根羽村で発見されたものと同種のものであろう。

その後、芹沢氏によって長野県のシロカネソウ sp を含めて核 DNA、葉緑体 DNA を用いた系統解析が行われた (芹沢他 2016)。その結果では、ツルシロカネソウ、コウヤシロカネソウは 2 倍体レベルであるのに対し、本種とハコネシロカネソウは 4 倍体レベルで (ただしハコネシロカネソウには 2 倍体レベルも含まれていた)、系統分析では集団間の差が種間の差よりも大きく、ハコネシロカネソウに含まれる可能性が示唆された。ただし、ハコネシロカネソウは倍数体の異なる 2 系統が存在する可能性があるため、今後さらなるハコネシロカネソウの検証が必要とされた。よって、長野県に産するシロカネソウ sp は現状ではハコネシロカネソウに含まれる可能性があるものの、今後別種として区別される可能性があることを記録しておく。

なお、本種と同一と思われるものを、飯田市上村の溪流で 2017 年に発見したが、花期がはずれていたため花を確認できなかったのもので、翌年に確認する予定である。

オオユリワサビ (アブラナ科)

Eutrema okinosimense Taken. 写真 7

・長野市戸隠高原 1200 m 2017 年 5 月 14 日

NAC185720

岐阜大の山根京子氏より、戸隠高原にオオユリワサビが生育しているという情報をいただき、2016 年の 5 月末に行ったところ、まったくワサビ類を見つけないことができなかった。2017 年にさらに早い時期に訪れたところ、水の流れの近くにオオユリワサビが多数生育しているのが見られた。葉の形状や大きさはユリワサビ *E. tenue* (Miq.) Makino とそっくりだが、花茎がやや違って立ち上がり、花がまとまって付く。花茎が太くユリワサビとは異なるもの

である。根茎には鱗片葉が形成されていた。一部を持ち帰り観察したところ、花が終わる5月末には葉が急速に枯れて、ほぼ地上部が無くなってしまったので、おそらく2016年に訪れたときには地上部が枯れた後だったと推測された。ユリワサビやワサビ *E. japonicum* (Miq.) Koidz. は花後も葉が残り、1年を通して地上部が存在する。オオユリワサビは長野県では信濃町に記録があるのみであった(長野県植物目録編纂委員会 2017)。

なお、開田高原にも通常のワサビとは異なるワサビ類が生育していることを報告しているが(上野・上野 2017)、今回オオユリワサビを観察することができ、開田高原のものはオオユリワサビそのものではないものの、オオユリワサビと共通の特徴があることも確認できたので、オオユリワサビとワサビの中間的なものと考えられる。

ビンゴムグラ (アカネ科)

Galium pseudoasprellum Makino var. *bingoense*

写真 8

・佐久市田口 1060 m 2017年9月24日
NAC185704

田口峠付近の林道の法面で、石のゴロゴロしたところにオオバノヤエムグラ *G. pseudoasprellum* Makino var. *pseudoasprellum* のようなものが生育していた。葉は4枚が輪生し、葉の先端はやや丸みを帯びており、花の付く柄が細く弱弱しい感じがする(村田 1992)。藤田淳一氏に標本を見ていただいたところ、ビンゴムグラとのことだった。県内では南アルプスから県南部にかけて記録されているが(長野県植物目録編纂委員会 2017)、オオバノヤエムグラとの区別が難しいため、今後精査すると他でも見つかる可能性がある。

謝辞

本報告の作成にあたり、貴重な情報と助言をいただきました長野市の大塚孝一様には、心より感謝い

たします。シロカネソウ sp につきまして、現地調査と貴重な情報をいただきました芹沢俊介様には心より感謝いたします。また、シロカネソウ類の標本の閲覧の許可をいただきました、国立科学博物館の海老原淳様には心より感謝いたします。オオユリワサビにつきまして、自生地情報、およびワサビ類についての貴重な情報をいただきました岐阜大の山根京子様には心より感謝いたします。ビンゴムグラに関し、同定と貴重な資料をいただきました松本市の藤田淳一氏には心より感謝いたします。標本の同定ならびに標本庫への登録をいただきました長野県環境保全研究所の石田祐子様には心より感謝いたします。

引用文献

- 上野勝典・上野由貴枝 (2011) 新産地報告 (6). 長野県植物研究会誌 44: 33-36.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2013) 新産地報告 (8). 長野県植物研究会誌 46: 115-118.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2015) 新産地報告 (10). 長野県植物研究会誌 48: 75-77.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2017) 開田高原に自生するワサビの特徴について. 長野県植物研究会誌 50: 187-191.
- 長野県植物目録編纂委員会 (2017) 長野県植物目録. 長野県植物目録編纂委員会.
- 加藤雅啓・海老原淳編集 (2011) 日本の固有植物. 東海大学出版会.
- 清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.
- 芹沢俊介・小木曾学・南谷明穂・村松正雄・森山昭彦 (2016) 東海地方西部産シロカネソウ類の再検討. 日本植物分類学会第15回大会 P53.
- 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編. 長野県自然公園協会.
- 村田源 (1992) 植物分類雑記 21. 植物分類、地理 43(2): 147-153.